



15 大洗のたまり場「だまっこ」



サロンのテーマ・目的

「だまっこ」とは大洗の方言で〈潮だまり〉のことを言います。潮だまりに集まった魚は〈ばっこ〉と呼びます。この「だまっこ」は潮だまりののんびりした、居心地の良い場所をイメージして運営しています。

ここに集う人は年齢も目的も性別も様々で“誰でも自由にいつでもここに溜まって欲しい”そんな思いで「だまっこ」はOPENしています。お茶を出す人も、お茶を飲む人も〈ばっこ〉です。このの〜んびりした雰囲気の中でゆったりと〈ばっこ〉になって過ごしてもらおう事をめざしています。

開設年月日 平成20年5月4日
開催拠点 大洗町中央公民館と大洗文化センターの間のスペース
連絡先 TEL : 029-267-1113
 FAX : 029-267-1113
 E-mail : damakko@taupe.plala.or.jp
代表者 大山 吐志

1回の参加人数 平均 20人
1回運営スタッフ数 平均 10人
利用料(参加費) 飲食代実費
年間予算額 530,000円
 (平成20年度実績) (内訳) 自主財源 380,000円
 利用料(参加費) 150,000円

活動の概要

- ばっこランチ (地元の食材を中心に地元の人がつくります)。
- ばっこそば (定年後そばうちを学んだ団塊の世代の人の社会貢献)。
- ばっこカフェ (趣味で作るお菓子が食べられる)。
- 無農薬野菜の受託販売 (茨城のたまり場ネットでの協力事業)。
- レンタルBOX (手作り作品の展示販売)。
- ミニギャラリー (学習成果の発表の場として)。
- だまっこ教室の開催 (様々な年齢層の人の元気づくり)。
- 一人暮らしのお年寄りのためのお弁当づくり (手作りの家庭の味をお届けする)。
- 子育てに悩みをもつ親とその子のための教室の開催 (月一回)

身近な人材や施設など地域の社会資源の活用

- 弁当などの食材は、大洗で獲れた魚が中心。
- つくる人も売る人もすべて地元のボランティア。
- 地元の人が手作りしたものを展示販売したり、手作り教室を開催。
- 公民館横のスペースの有効活用。

サロンの特徴

- 「三人よれば文殊塾」という町内のいろいろな分野で活躍しているボランティアの人々や、団体の組織がすでに存在していて、声をかけやすい。場所が、役場のすぐ横で公民館や図書館とも隣接しており溜まりやすい。
- 茨城県内のたまり場とのネットワークがすでに構築されています。





サロン実施にあたって苦労したこと

人集め

- ランチやカフェを提供しているため、近くの営利目的のお店との関係で、行政の広報誌等でPRをしてもらうことができない（解決に向けて努力中）。
- ワンデイシェフのシステムを真似てスタートしたが、実際にシェフになってくれる方が少ない。
- 利用者は公民館や図書室に来た方が多く、日常的な利用になかなか繋がらない。

活動拠点

町からの依頼で、利用していなかったレストランの跡のスペースをお借りし、施設の活性化も兼ねてスタートしたため、その点での苦労はありませんでした。しかし、施設的には老朽化していて、冷蔵庫や換気扇、湯沸かし器などが使用できなかつたり、始まってみて分かったこともあり、今後、設備の改善が必要な点が多々あり、問題は残っています。

財源

- カフェやランチなどの提供
- レンタルBOXの貸出
- ミニギャラリーの開催
- 手づくりパン・ケーキなどの受託販売
- 一人暮らしのお年寄りにお弁当の提供（行政からの委託事業）

サロン開催の効果

- 学んだ事を活かす循環型生涯学習社会の実現。
- 心に病を持った方との交流（数人ですが）。
- 様々な年齢層の人との交流。
- 知らなかった地域資源の発見。

サロン開催の課題、今後のサロン活動への想い

- 施設の老朽化に対応していけるかどうか。
- いかに多くの人が運営に関わってくれるようになるか。

“「だまっこ」に行くといつも元気がもらえる”
そんな場所作りができれば良いと思います。



委員からのプレゼント

「だまっこ」は大洗町の役場に隣接する建物の2階にある。この建物は半分が文化センター、もう半分が中央公民館となっていて「だまっこ」はちょうど間の渡り廊下のようなところに位置する。手造りの看板を目印に中に入ると窓越しにはフェリー乗り場、その先には鹿島灘。海の街、大洗らしい景色が広がる。訪問したのは週一回ランチを提供している日。この日のメニューは「ウシカと鰯のフライ」「花鯛の酢め」「ヤリイカの刺身」などなど。「ばっころんち」と名付けているだけあって海の幸づくし。地元で水揚げされた新鮮な海産物を漁師さんの奥さんが調理。手作りのおふくろの味で本当に美味しい。

テーブルにはランチを食べに訪れた大勢の人。毎日散歩がてらに立ち寄るといふ70歳の男性は「たまに休んでることがあるんだよね」と残念そう。代表の大山吐志さんは「本当は毎日やりたいんだけど、無理をして駄目になるよりは長く続けたいので」と笑いながら頭を下げる。「だまっこ」とは大洗の方言で「潮だまり」。温かい「潮だまり」としていつまでも地元の人たちにやすらぎを与える場であり続けることを期待しています。

（前田 幹哉委員）